

公衆衛生看護方法論

責任者・コーディネーター	地域包括ケア講座 宮本 郁子 教授		
担当講座・学科(分野)	地域包括ケア講座、睡眠医療学科、内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野、人間科学科心理学・行動科学分野		
対象学年	3	区分・時間数	講義 4.5 時間 演習 18 時間
期 間	後期		
単 位 数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

地域における看護活動の具体的な方法として、個人・家族、集団、地区組織を単位とした住民の健康課題の支援方法を学ぶ。保健指導の基本となる乳幼児の発達アセスメント、家庭訪問の基本、保健行動理論を用いた行動変容につながる保健指導および健康教育の基本的考え方に基づく事業の展開など幅広く学修する。そして、母子保健における家庭訪問、健康診査、生活習慣病対策における健康相談、健康教育、グループ支援の方法を実践的に学修する。

・教育成果（アウトカム）

公衆衛生看護活動の基本的な方法である家庭訪問、健康相談、健康教育、グループ支援について、講義等を通して活動の根拠が説明できる。また、生活習慣と疾患との関連を理解した上で行動変容につながる保健指導を考えることができる。グループワークによる健康教育の実施、ロールプレイ等の演習を通して、住民への支援のための公衆衛生看護活動方法を具体的に考えることができる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：3, 4, 5, 7, 8

・到達目標（SBO）

1. 様々な人々との協働を通して、健康上の諸課題への対応に参画できる。
2. 健康を支援するために環境に働きかけていく必要性について説明できる。
3. 栄養・食生活、身体活動・運動、休養・睡眠と健康との関連について説明できる。
4. 嗜好（喫煙、飲酒、ギャンブル等）と健康との関連について説明できる。
5. 人の行動変容支援に必要な基礎理論（心理学、行動科学）について活用できる。
6. 家族のセルフケア機能、社会化機能を説明できる。
7. 家族をシステムとして理解し家族介入の基本を実践できる。
8. 対象者の状況に応じて情報収集でき、それを系統的・継続的に整理し、アセスメントできる。
9. 看護の視点から見いだされた対象者のニーズに対応する目標を示し看護計画を立案できる。
10. 子供の成長・発達に関してアセスメントができ保健指導を実践できる。

11. 虐待等、特別な状況にある子供や家族、社会の特徴を理解し、必要な看護を説明できる。
12. 対象者の行動変容に対する理解、感心や動機付けの状況についてアセスメントを行い、必要な保健指導を実践できる。
13. 心身の健康障害の早期発見・早期診断・早期治療に必要な健診等のシステムとその活用について説明できる。

・ 授業日程

(矢) マルチ 3-B 実習室、 (矢) マルチ 4-A 講義室

【講義・演習】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
9/1	火	3	地域包括ケア講座	宮本 郁子 教授 岩渕 光子 特任准教授 大澤 扶佐子 講師 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教	個人・家族、グループへの支援方法 ・対象の理解とアセスメントに基づいた支援が説明できる
9/3	木	2	地域包括ケア講座	宮本 郁子 教授 岩渕 光子 特任准教授 大澤 扶佐子 講師 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教	家庭訪問の実際 1 ・家庭訪問の目的、計画およびプロセスと評価ができる ・家庭訪問の目的を理解し、家族全体を捉えた母子の訪問計画を立案できる ・訪問計画に沿った家庭訪問が実施できる
9/8	火	3	内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野	石垣 泰 教授	生活習慣病の保健指導 ・生活習慣と健康との関連について理解し、生活習慣病の保健指導について説明できる
9/8	火	4	睡眠医療学科	櫻井 滋 教授	生活習慣病の保健指導（飲酒・喫煙・睡眠） ・飲酒、喫煙、睡眠等の生活習慣と健康の関連を理解し、生活習慣病の保健指導について説明できる

9/9	水	2	地域包括ケア講座	宮本 郁子 教授 岩渕 光子 特任准教授 大澤 扶佐子 講師 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教	家庭訪問の実際 2 ・ハイリスク対象者への支援について説明できる ・家庭訪問の記録と評価ができる
9/14	月	2	地域包括ケア講座	宮本 郁子 教授 岩渕 光子 特任准教授 大澤 扶佐子 講師 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教	乳幼児の成長・発達のアセスメントと乳幼児健康診査の実際 ・健康診査における成長・発達のアセスメントが実施できる
9/25	金	2	地域包括ケア講座	宮本 郁子 教授 岩渕 光子 特任准教授 大澤 扶佐子 講師 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教	乳幼児健康診査における問診、個別指導、集団指導 ・乳幼児健診の健康相談において問診及び個別指導が実施できる
9/30	水	3	人間科学科心理学 ・行動科学分野	相澤 文恵 教授	行動科学理論の保健指導への応用 ・人の行動変容支援に必要な行動科学理論を保健指導に活用できる
10/5	月	3	地域包括ケア講座	宮本 郁子 教授 岩渕 光子 特任准教授 大澤 扶佐子 講師 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教	行動変容を促す保健指導の実際 ・行動科学理論を用いた保健指導が実施できる
10/5	月	4	地域包括ケア講座	宮本 郁子 教授 岩渕 光子 特任准教授 大澤 扶佐子 講師 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教	健康教育の目的と方法 ・行動変容に関する理論を活用した健康教育が説明できる ・地域診断に基づいた地域の課題から、健康教育を実施することが説明できる

10/6	火	4	地域包括ケア講座	宮本 郁子 教授 岩渕 光子 特任准教授 大澤 扶佐子 講師 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教	健康教育の企画書作成 ・ 健康教育の企画書を作成できる ＜グループワーク＞
10/8	木	3	地域包括ケア講座	宮本 郁子 教授 岩渕 光子 特任准教授 大澤 扶佐子 講師 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教	健康教育教材の選定・開発 ・ 健康教育に適した教材を選定し、開発又は作成できる ＜グループワーク＞
10/8	木	4	地域包括ケア講座	宮本 郁子 教授 岩渕 光子 特任准教授 大澤 扶佐子 講師 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教	健康教育の具体的指導案作成 ・ 教材開発や根拠を持った健康教育の指導案が作成できる ＜グループワーク＞
10/13	火	3	地域包括ケア講座	宮本 郁子 教授 岩渕 光子 特任准教授 大澤 扶佐子 講師 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教	健康教育の実施・評価 1 ・ 健康教育を実施し、相互評価を行うことができる ＜グループワーク＞
10/13	火	4	地域包括ケア講座	宮本 郁子 教授 岩渕 光子 特任准教授 大澤 扶佐子 講師 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教	健康教育の実施・評価 2 ・ 健康教育を実施し、相互評価を行うことができる ＜グループワーク＞

・ 教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術 第3版	中村 裕美子 他	医学書院	2019
参	公衆衛生看護活動論 技術演習 第3版	岩本 里織 他	クオリティケア	2018
参	母子保健マニュアル	高野 陽 他	南山堂	2010
推	睡眠障害の対応と治療ガイドライン 第3版	内山 真	じほう社	2019

推	睡眠障害 知る診る治す	櫻井 滋 他	メジカルビュー社	2014
---	-------------	--------	----------	------

・成績評価方法

定期試験 80%、健康教育評価 20% 合計 100%にて評価する。

・特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

シラバスに記載されている授業内容および到達目標を確認し、予習した上で授業に臨むこと。演習開始前には、関連する教科書および配布資料を読み、学修のポイントを理解した上で参加すること。健康教育指導案についてはグループワークを行うので、自己学修時間を確保すること。最低 30 分以上の事前事後学修を要する。授業終了後は主体的に自己学修を行い、知識の理解と定着に努めること。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

演習の評価は評価表に基づく評価と学生間のピア評価を行い、後日学生にフィードバックする。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

保健師（別表 1）：公衆衛生看護学 個人・家族・集団・組織の支援

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
演習	プロジェクター（VPL-FWZ60）	1	講義用スライド投影
演習	書画カメラ（P-100）	1	講義用資料投影
演習	健康教育関連機材	一式	健康教育指導案作成
演習	DVD（ブルーレイおよび一般 DVD）再生機器	1	講義用資料投影